

2025年度 自己評価書
1 学校園経営計画
別紙のとおり

2 自己評価

領域	重点目標・具体的な取り組み	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	○重点目標「何よりも安全を最優先に」を基本姿勢に、安全管理の徹底をはかった。 ○大学と一体となって、責任を持って附属学校の使命である研究・実習を果たすように努力する特に、幼小中連携研究、自己実現活動を中心とした幼小校内研究を充実させる。 ○保護者や地域住民の方々からの声を学校運営に生かす。 ○子ども家庭支援センターや児童相談所などの外部機関と連携し児童・保護者対応を迅速に行う ○子育てトークと個別相談を計画的に実施する。スクールカウンセラーや教育支援員と連携した支援体制を確立する。（幼）	○いじめは絶対に許さない、どんなことがあって許されないという学校の姿勢のもと、学校生活の様々な場面で多様性を認め寛容性を育む。 ○子ども・保護者が困っていることを相談しやすい学校体制を整えた。 ○日頃より子ども一人一人の状況や友人関係の把握に努めながら、学期ごとの自由記述式のアンケートや、「生命の日」集会後のアンケートなどから、いじめの早期発見を心掛けた。こと ○情報の共有化を図り、学校全体で組織的な指導を行った。 ○教職員にとって働き甲斐のある職場環境（←個の尊重、自由・権利＝義務）に努めた。 ・竹早小学校の理念を大事にしつつ、働き方改革の視点から仕事の内容面及び方法面（校務支援システムの導入など）を常に見直した。	C	○子どもがいじめと認識しえない行為・言動の他人への影響や相手の立場にたつことの重要性についてより認識させる必要がある。多様な教育活動や行事をとおして相互理解・コミュニケーションの充実をはかるべく工夫する。また保護者との連携を強化し、いじめを生じさせない意識の醸成および環境づくりを進める。 ○いじめやそれにつながる行為について、被害者のみならず、周囲の子どもも気になることを気軽に相談できるよう児童・保護者に働きかける。 ○日常的な子どもの様子や人間関係について、担任のみならず学年全体ならびに縦割り班や「たけのこタイム」の担当教員など、複数教員の目で継続的に把握し、問題を共有する。 ○児童及び保護者からのアンケート調査の	○心身の安全を最優先、いじめは絶対に許さないを徹底し、万が一の場合でも早期発見・解決に結びつける。 ○被害者を守ることが最優先。 ○働き方改革を意識して職場環境を常に良好にする。 ○いじめが多様化（ネットに対する対応）する中で、現場の努力にも限界があることから、大学と連携した人材確保が求められている。

				両面から、課題を絞って取り組んでいく必要がある。 ○個別児童・保護者への対応、とくに勤務時間後の対応等の業務負担を軽減すべく検討する。 ○勤務時間管理システム導入に伴う勤務時間の設定や超過勤務の認定について、個々の勤務実態にそくした形で運用できるよう検討を継続する。	
教育活動	◎子ども自身の願いや思いを大切に活動創造・工夫する。（重点目標） ○幼小中連携の教育を大事にする ○竹早の「スタンダード」を大切にしていく。 ○教育課程特例校として、独自の教育課程の開発に取り組む。 ○異年齢集団による自治的な活動を大事にする。 ○コーディネーター，校内委員会を中心に特別支援の教育環境を整備する。 ○小学校教育への連続性を踏まえた教育実践を行う（幼）	○今年度も竹早園舎・竹早小の大きな特徴である縦割り活動を実施した。 ○積極的に遠足・校外学習を計画・立案し、実施することができた。	A	○情報管理・発信に関する子どもへの指導・啓蒙を継続的に行っていく必要がある。 ○登下校時や公共交通利用時のマナーに課題がある。保護者もふくめた子どもへの指導と理解を促す手立てを検討する。 ○子どもや保護者からの要望や相談への対応が増え、特定教員の負担が大きくなることもある。そうした事態が生じないよう組織的対応のあり方をあらためて検討する。	
研究活動	◎幼小一貫，幼小中連携の教育を大切にする（重点目標） ○教育課程特例校である「自己実現活動」の校内研を通し，授業を見取る観点を明確にし，分析し，授業改善を図る。 ○小金井園舎と情報を交換し，今日的な課題や昨年度の反省を生	○幼小中連携研究「未来の学校プロジェクト」公開研究会を2025年11月15日に開催し、500名を超える参加があった。（口頭報告） ○文京区教育委員会主催の3年次教員研修をはじめとする講師派遣を例年通り行うことができた。 ○教育課程特例校として設定している「自己実現活動」の研究会を校外にも発信し、幼小連携で、拡大活動研として、2026年1月30日に開催し、約50名	A	○幼小中連携の教育研究活動について、会議時間の問題や過重負担が生じないように相互理解をすすめていく。	○研究成果を積極的に外部へ発信、PRしていく。 ○文京区教員に提供されているバカロレア機構が進めるIB教育についても研究されている学校と連携し

	かした教育実習プログラムを立案し、実践を行う。（幼）	の参加があった。研究成果を外部に発信することができた。			て、竹早らしい教育を推進していく。 ・他校の先生方との交流を模索していく。
学生の教育・支援活動	◎学生に教育実習の場を提供し、教員として優れた資質をもった人材を育成する。 ○子ども一人一人が課題を自分のものにする過程を大切にし、急かせることなく、丁寧に子どもに寄り添う事の大切さを指導する。	○9月10月の必修、2月の選択・補充実習ともに無事に終えることができた。	A	○今後も学生が日常的に関わることができる教育現場であるよう、支援員として、学生の受け入れ体制を整備する。	○教育実習の実績を積み上げ、その中で、情報教育の推進をしていく。
社会貢献活動	◎附属学校の使命である地域の拠点校として特に、文京区教育委員会との連携を密にしていく。（重点目標） ○国内外の視察・参観者の受け入れを積極的に行う。	○「未来の学校プロジェクト」の一環として、ランチルームの一部にコワーキングスペースを兼ねた共創空間を設定し、竹園会、竹早会、同窓会、大学、連携企業などの学校関係者の活用を進めている。	A	○今後も、地域のモデル校としての役割を果たし、地域教育の発展に貢献していく。	○コワーキングスペースを通しての活動により、関係者の情報共有につなげていく。

3 その他の特記事項 特になし